

## 第3回池田町学校あり方検討委員会 会議録

日 時：令和7年11月20日（木） 10：00～11：40

場 所：池田町役場 3A会議室

出席者：検討委員会委員 22名

池田町教育長、事務局 5名

### 1 開会

皆さま、おはようございます。定刻になりましたので、只今から第3回学校あり方検討委員会を開催いたします。はじめに本日の資料の確認をさせていただきます。委員の皆様、過不足ございませんでしょうか。本日の検討委員会の予定時間は1時間30分ぐらいを想定しておりますので、議事の進行を効率的に行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。開会にあたり、第3回検討委員会までの経緯と本日の検討委員会の内容を含めまして教育長よりご挨拶いたします。教育長よりお願いします。

### 2 教育長挨拶

まず会議にあたり、本日第3回の検討委員会までの経緯と内容を説明します。今日は寒くなりましたが、ありがとうございます。3回目になりまして、1回2回と皆様に心から感謝いたします。2回の会議を終えまして、その後「もう少し若い人の声を聞いたらどうか」という話がございまして、各保育園で3時半から4時半という時間を設けまして、保育園の保護者の方にお話を伺う場を設けました。それから、インターネットを通して、アンケート以外のところでもご意見をいただきまして、ありがとうございます。町民の方々が前向きにいろいろ考えていただけることで、情報をいただけるのでありがたく思っております。今日もよろしくお願いいたします。

今日は、保育園でいろいろ若い親さんの意見を聞かせていただきましたので、議事2のところ、森副委員長さんに担当していただいて小委員会を行いましたので、その様子を議題に沿って説明させていただきます。議事1では、他の町村の様子や、義務教育学校といった専門用語についても説明させていただきます。議事3では、「案を出してくれないと話が進まない」というご意見もございましたので、事務局として荒いながらもたたき台を出させていただきます。本日もよろしくお願いいたします。

（事務局）

ありがとうございます。それでは次第の方に従い進めさせていただきます。3番の議事に入りますが、これより進行の方、委員長の方をお願いしたいと思います。委員長、よろしくお願いいたします。

### 3 議事

（委員長）

おはようございます。委員長にご指名いただいております、岐阜協立大学の竹内です。あらかじめお断りしますが、風邪をこじらせておりまして、途中で咳き込むかもしれません。ご了承ください。それでは進行させていただきます。まず議事 1「西濃地域における教育の再編と新たな学校の形について」、学校教育課の方、よろしくお願いします。

(事務局)

資料に沿って説明させていただきます。資料 1-1 をご覧ください。近隣の市町の統廃合の状況を調べてみました。学校のあり方を検討して実施してきた市町がこちらになります。これ以外にも、単純に子供が少なくなって統廃合した例として、令和 3 年度に揖斐川町の坂内小中学校が小中合わせて 4 人となり廃校になっています。また昨年度の春日小学校も 9 人ということで廃校になっています。市町全体で学校のあり方を考えたものは、一覧表の答申年度と統廃合時期の欄に挙げさせてもらったものになります。令和元年度に上石津が義務教育学校設置の答申を出しています。令和 2 年度に北方町が義務教育学校 2 校にするという答申を出しています。同じく令和 2 年度に海津市が小学校統合方針の答申を出し、海津町の 5 校を 1 校に統合することで昨年度実施されました。養老町が令和 12 年度に統廃合予定で、小学校 7 校を 2 校に再編成する方針答申を出しています。今年度、大野町が小中学校統合の方針答申を出し、義務教育学校 1 校にするとしています。

2 番をご覧ください。それぞれの市町村の規模と人口等が書いてあります。池田町が 22,000 人ですので、大体大野町と同じぐらいの規模と考えていただけたらと思います。統廃合の実施時期は、養老町と大野町については予定となっています。上石津は小学校 3 校、中学校 1 校を義務教育学校 1 校にしています。開校時には 274 人で、9 学年で 274 人ですから、そんなに大きな規模ではありませんが、複式学級を解消するということは達成しています。北方町は小学校 3 校、中学校 1 校であったところを義務教育学校 2 校という編成を行っています。特徴としては、小中学校だけでなく、幼保小中一貫教育 15 年間をやっていくという方針で、1,000 人規模の学校と 500 人規模の学校 2 校になっています。海津市は旧海津町の中の小学校 5 校を 1 校に統合しました。海津市は平田町、南濃町、海津町があり、それぞれに中学校が 1 校あります。海津地区はこれで小学校が 1 校、中学校が 1 校という形になっています。平田町にも小学校が 2 校、南濃町にも 3 校あり、それぞれ平田中、城南中学校がありますが、現在のところ統廃合を進めていく予定はないと聞いております。養老町は小学校 7 校、中学校が東部中と高田中の 2 校ありますが、それぞれの中学校の校区ごとに小学校を 1 校に統合する形をとっています。現在小学生が 1,000 人ぐらいで二つに分けると 500 人規模になりますが、令和 12 年度には 300 人と 286 人ぐらいに減っていくものの、各学年複数学級は確保できる形でやっています。大野町は現在小学校が 6 校、中学校が 2 校ですが、これを全てまとめて義務教育学校 1 校にします。1,000 人以上の学校になり、30 数クラスとなり、適正規模よりも大きくなる予定です。特徴としては、どこかの校舎を元に作っていくのではなく、新しい校舎を建て、通学距離が遠くなる生徒にはスクールバスを導入する形でやっていくという特徴があります。

次に資料 1-2 をご覧ください。こちらが義務教育学校についてまとめたものです。現在の小学校 6 年、中学校 3 年という「6-3 制」は昭和 20 年代前半に制定されたものです。それから 80 年が経って、子供の発達の様子や社会の様子が大きく変わり、「6 と 3」に分けること自体が正しいのかという議論から、9 年間を一貫してやっていくということで平成 28 年に制度化されたものです。9 年間

一緒に見ていくので、6と3で分ける必要がなく、教育課程を自由に組めます。例えば図1に示すように、「6-3」ではなく、「4-3-2」で分けていろいろ教育をすることができます。白川郷学園などの報告によると、これによって学力が向上した、地域を学んでいく「白川学」というカリキュラムが9年間通してできるというような良さがあったと報告されています。ただしデメリットもあり、9年間ずっと同じ学校なので人間関係が複雑になった、保護者間のトラブルもあると白川郷学園から聞いています。また、教員については小学校と中学校の両方の免許が必要になります。例えば理工学部の数学科などを出ると基本的に中学校と高校の免許しか取れないことがあります。池田中では、講師の先生合わせて46人いますが、小学校の免許を持っていない先生が25人おり、6割ぐらいの先生が池田町の小学校では教えられなくなってしまいます。初任者の先生も町内で5人いますが、4人の先生がどちらかの免許しか持っておらず、1人しか受け入れられないというデメリットもあります。

最後に資料 1-3 をご覧ください。義務教育学校とは違った形で、市内や町内の全部の学校をつなげてやっていく取り組みをしている市町があります。山口市です。山口市では、統廃合を行わずに小規模校も含めて連携を取ることで、一つの学園としてやっていく方式をとっています。これは20年前に高富町、伊自良村、美山町が合併した背景があり、それぞれ違う三つの町が集まっているような状態だったため、学校の統廃合ができなかったと聞きました。できないならどうするかと考えたのがこの「山県学園構想」です。それぞれの中学校区ごとでまとまりを作り、中学校の先生が小学校に行ったり、小学校の先生が中学校に行ったりして教えたり、複数の学校が集まって一緒に授業をしたり、オンラインで連携したりしています。図の方は山口市のホームページにあるものに距離を調べて入れたものです。学校間の距離がこのような状態で結構離れており、一つにまとめるのは地理的に難しかったのかと思います。メリットはたくさんありますが、説明会で聞いた時に「教員の負担が大きくないですか」「市教委の負担が大きくないですか」という質問に対し、市教委の担当者は「大きくない」と答えていました。基本的に校長先生同士が連絡を取って企画してやっていくので「校長先生はやりがいを持っているから負担ではない」とのことですが、実際には事務手続きなどの連携については結構な手間がかかるようです。以上、資料 1-1 から 1-3 まで説明させていただきました。

(委員長)

ありがとうございます。他の市町の情報や義務教育学校についてお知らせいただきました。特にご質問などございましたらお願いしたいと思いますが、何かございますか。

(委員)

質問ですが、資料 1-1 で統廃合の特徴について分かりやすく書かれていますが、実際のところ、それぞれの特徴に対して評価されているのかどうかを知りたいです。私としては池田町に人口が増えてほしいので、近隣の市町よりも優れた学校を作ること考えた時に、どこが評価されているのかを知りたいです。

(教育長)

きちんとした資料はございませんが、情報として話させていただきます。上石津については、大垣市の中で飛び地の形になっており、複式学級を解消する必要があったということで一つにまとめて解消できました。また、地域との連携では、地域の方から「このようにしてほしい」という呼びか

けが大垣市にあり、地域の提案を受けて市が決断した形になっています。そのため、現在は地域からも信頼を得て運営しているとのこと。不登校も少なくなったと聞いています。北方町については、中学校も含めてあえて二つに分けました。南小学校という北方の南の方に新しい校舎があるので、そこの校舎を活用して南小学校を中学校に変えました。北学園は国道の北側にあり、幼稚園から小学校、中学校までが繋がっていて評価されています。ただ、管理職については校長 1 名に加えて副校長や教頭が配置され、多忙化の問題は否定できない部分があります。海津市については、地域から大事にされています。平田町と南濃町が一緒になったところで、まず海津地区だけ固めてみようということです。小さな学校が 5 つあるので、5 つを 1 つにしました。通学バスが 6 台走っているということで、財政的な困難さはあるようです。以上です。

(委員)

ありがとうございます。できれば今後はその辺りの評価も資料に素直に書いていただけると、池田町のより良い選択肢が増えると思います。

(委員長)

時がまだ経ていないので、外部評価ではなくて内部評価になるかもしれません。地理的事情も違うので難しいところもありますが、その辺を資料に入れてください。では続けて議事 2「小委員会の報告について」をお願いします。

(副委員長)

私が担当させていただきましたので、ご報告します。まず、子供たちの成長育成の観点からすると、複数のクラス編制が望ましいということで、統廃合が必要だろうということがありました。一方で、通学での安全確保が大きな課題になるだろうというところでした。ただ、どことどこがどうなるのかということが示されていない段階で、この辺は心配だという話でした。また、他の市町村がどんな方向に行こうとしているのか、池田町はどういう方向で行こうとしているのかという方向性が見えると良いという話もありました。委員に求められているものは何か、どんな意見を話せばいいのかという意見もありました。また、意見を言いやすい雰囲気もあると良いという意見もありました。

(委員長)

ありがとうございました。小委員会の意見として、学校の統廃合について情報提供の要望が多く寄せられていて、保護者を安心させる通学環境の整備を期待していることや、施設の老朽化に対する不安がありました。学校の運営に関してはトラブルについて懸念があり、地域との連携では、親同士や地域との情報共有の場の重要性が強調され、こども達の安全な登下校のための取り組みが求められています。この資料 2-1 についての説明はよろしかったですか。

(教育長)

資料 2-1 については、各保育園で開催した意見聴取の内容ですので、ご覧いただければと思います。

(委員長)

では小委員会の報告についてご質問やご意見はございましたらお願いします。特になければ、議事 3「事務局提案について」に移ります。資料 3 に基づいて説明をお願いします。

(教育長)

今までバクッとした話でしたが、今回は思い切って提案を出させていただきました。通常提案というバックデータや実現可能性もきちんと検討しますが、今回はあくまで叩き台という形で提案し



ます。

基本方針 1 として、小学校については統合して再編整備を考えていきたいと思います。アンケートの自由記述欄では「統合はまかりならん」という意見もありましたし、150 年の伝統ある学校を維持してほしいという要望もありましたが、諸般の事情を考慮し、統合しながら再編整備をしていきたいとしたのが基本方針 1 です。再編整備の期間として目処としては、現在の 1 年生が卒業した翌年、つまり令和 13 年度を一つの目安として考えさせていただきました。

基本方針の 2 です。令和 13 年度までのところで 2 校体制が望ましいのではないかと事務局提案します。通学条件整備が整ったところで、令和 13 年度までに 2 校体制としたいと考えています。理由としては 1 番目、各学年が 1 クラスになることを回避し、複数学級がある状態にしたい。2 番目、現在の校舎を利用していきたい。3 番目、児童の通学負担の軽減を考慮したいということです。令和 17 年度以降は、後ほど資料でお見せしますが、町内全体で 1 学年 2 クラスほどになり、一つの学校でも済むようになります。しかし、施設の老朽化のことを考えると、17 年まで待つのも難しいでしょう。また、アンケートでは 20 人から 29 人のクラス規模が望ましいという意見もあり、早急に一つにすると大きなクラスになる可能性もあります。そのため、令和 13 年を目処に現在の施設を使いながら 2 校体制を目指します。保育園についても、小学校の統廃合に合わせて同時期に考えていきたいと思います。なぜ 1 クラスにすることが良くないかについては、A. クラス替えを行うことができなくなり、人間関係の問題や異なる考えに接することができない点を解消するために 2 クラス以上を目指します。B です。1 クラスだと一人の先生がその学年全部を持たなければならず、教材研究や行事、生徒指導について相談相手がなくなります。ですので、複数クラスを維持したいと考えています。令和 8 年度から 13 年度までのクラス数予測では、温知小学校は 14 クラスから 13 クラス、12 クラスとなり、池田小学校は令和 13 年度には全学年 1 クラスになってしまいます。八幡小学校も 11 年度から 6 クラス、各学年 1 クラスになってしまう予測です。ですので令和 13 年度くらいには着手したいと考えております。宮地小学校と養基小学校については既に 6 学級の状態であり、早急に対応が必要だろうと考えています。では、どこの 2 つかという、それが 1 番難しいところです。令和 13 年度の予測人数を見ると、温知小学校が 216 人、八幡小学校、宮地小学校、池田小学校、養基小学校と書いてございますが、これをどうやってグループにしていこうかということです。これは今後検討が必要です。スクールバスについては後ほど説明しますが、多額な費用がかかることや、校舎整備も必要になるかと思います。地域の方が入りやすいような学校運営のための部屋の設置など、何らかの整備は必要だと考えます。条件整備が整った段階で、令和 13 年を待たずに早めることも検討します。

次に基本方針 3 です。義務教育学校については、令和 13 年の段階では設置しないという案を提案しています。令和 13 年度の児童生徒数予測では、全学年合わせて 930 人程度となり、クラス数は 33 学級になります。これは一人の校長で管理するには大きすぎる規模です。また、どの校舎も 33 学級を収容できません。今の池田中学校でも入りきれませんし、小学校と中学校は階段の高さなども違うので一緒には無理です。そうすると新しい校舎を作ることになりますが、池田町には新しい学校があるのにそれを使わずに新しい校舎を建てるのは無駄ではないかと考えます。

個別の課題としては、宮地小学校については令和 12 年に複式学級が 2 学級できる予測です。教員数も 5 人しか担当されず、学校運営が困難になります。養基小学校も令和 9 年から学年によっては 20

人を下回るクラスが出てくる予想です。養基小学校についてもこれから増えていく見込がないので難しいということです。ここで別紙 1 をご覧ください。点線が揖斐川町と池田町の境になっています。養基小学校は組合立という全国でも珍しい形態で、明治 6 年に修道学校として開校以来、歴史的に地域にあり続けてきました。昭和 31 年に養基村が池田町と揖斐川町に分村合併した際にこのような状態になりました。150 年前から一つでやってきた学校が分かれることになり、難しい問題です。揖斐川町も現在学校のあり方を検討していますが、この件については揖斐川町との協議が必要です。跡地利用については財産処分についての問題も出てきます。通学手段については、スクールバスの導入が必要になってきますが確保の問題もあります。また、通学区域についても夏の暑さの点からも検討が必要です。今ある通学区域についても検討が必要なのではないかと考えています。大垣市では地区によってどちらの学校に行ってもよいという通学区を設けていますし、全国的には尾道が通学区域の弾力化をしています。スクールバスも通学区域についても考えていかなければならないということです。

次に、5 番、将来的な少子化に対する対応についてです。令和 13 年度以降については、令和 16 年度までは学校規模が大きいですが、5 % 減少で考えていくと 17 年度以降は減少傾向となり、令和 20 年度くらいには学級数は 2 クラスとなり 1 校体制が望ましくなると思われます。ではその時にどんな学校にするのか義務教育学校とするのか検討が必要になってきます。また文部科学省の学級定員政策の変化もあり得ます。今までも 1 学級 40 人から 35 人となりました。特別支援学級は 1 クラス 8 人ですが、この制度が維持されるか分かりません。世界的な流れでインクルーシブ教育となっていくかもしれません。今後の状況を見ながら検討する必要があります。地域との連携や統廃合後の学校跡地利用については、次の会議で議論したいと思います。

ここで保育園についてお話をさせていただきます。

(事務局)

保育園についてご説明します。別紙 2 をご覧ください。各園の園児数推移を見ると、年々減少していることが分かります。保育園の統廃合については、小学校の統廃合時期に合わせたいと考えています。理由としては、少人数の保育園から多人数の小学校に上がった際の環境変化や、また逆の多人数の保育園から少人数の小学校に上がった際の環境変化による子供の負担を考慮してのことです。園児数につきましては令和 9 年には公立保育園全体で 180 人程度になることが想定され、温知や西保育園であれば 1 園でも定員以内となる見込みです。また、現在の園の立地状況や整備状況も考慮が必要です。災害リスクや老朽化の問題もあり、統合する保育園の整備も必要になってきます。子どもたちにとって一番良い方針を考えていきたいと思います。

(事務局)

10 月 1 日に役場に人事異動があり、前任から引き継ぎました。精一杯取り組みたいと思いますのでよろしくお願いいたします。課題として、学校と同様に統廃合後の跡地利用の問題があります。施設の存続活用方針、取り壊すにしても、その費用の問題があります。もう 1 つは通園バスです。通園方法については、現状では多くの保護者が自家用車で送迎してみえるようですが、徒歩で通う園児もみえるため、今、調査を進めています。通園バスの必要性についてご議論をいただきたいと思っています。保育園が統合された場合、送迎車の集中による交通トラブルや渋滞も懸念されるため、ロータリーや駐車場の整備など周辺環境の整備も検討する必要があると考えています。また、私立と

公立の保育園の関係です。園児数が減っていくということで、将来的な議論が必要になると思います。小学校のあり方の先に公立保育園と私立保育園とのあり方については避けてはいけない道かと思います。統廃合が進めば保育士の余剰も発生するため、専門職である職員の働き場所の確保も検討課題となっていくと思います。

（委員長）

ありがとうございます。事務局提案についての説明がありました。この会議は「基本方針」について話す場だと考えています。この検討委員会は住民の声を教育委員会に届け、原案作成に役立てていただくという場です。具体的な細かい話ではなくて基本方針についてのご意見をいただきたいと思います。

（委員）

一つの資料としてお願いしたいのですが、学校の災害など安全性についても保護者は心配しています。2校体制を目指す中で、学校の築年数などの情報も資料に入れていただけると、どこを残すべきか判断する基準になると思います。学校と保育園についての資料をお願いします。

（委員長）

次回の資料に入れていただくよう、お願いします。

（委員）

小学校の2クラス運営については親としても望ましいと思います。通学方法については安全に子どもたちが通学できることが一番だと思います。

（委員長）

保育園については小学校に合わせて統廃合していくということですが、保育園の保護者からご意見はありますか。

（委員）

基本方針がすごく分かりやすく良いと思います。資料2-2にあるように、保護者は皆さん既に十分理解していると思います。先程の話にもあったように、今後を知りたいと思っている。だから、今回の基本方針を伝えたら明るい楽しい前向きな意見が出ると思います。

（委員）

私も、この方針はとても分かりやすいと思いました。ただ、この場で議論することではないかもしれませんが、学校の存在意義というのがあると思います。教育、社会性、人づくりなどの学校の大前提が守られているのであれば、非常に分かりやすいと思います。

（委員長）

事務局にかわって、お話をさせていただきますと、2クラス体制ということが社会性や人づくりのための前提になっていると考えていただければ良いのかと思います。小規模校の出身者が大規模校に行ったときに不登校になる場合もありますので、ある程度の規模はあったほうが良いかと思います。地域の方でご意見はございませんか。

（委員）

養基小学校はいわゆる組合立の学校で、150年の歴史を一刀両断で切るのかという意見もあります。そもそも何故合併したのかという話にもなる。しかし、少子化の問題の中で避けられない問題だということで、揖斐川町との関わりもありますので、両町の下で統廃合を進めていただければ

と思います。

(委員長)

時代の変化もあると思います。歴史の残し方などは教育委員会でしっかりと検討してください。

(委員)

今までの2回の会議より基本方針が出て良かったと思います。2校という基本方針は分かりました。生徒を第1に考えて、どこを残すかを早めに決めてほしいと思います。早く決めて、それに対するケアを重視して会議してもらいたいと思います。

(委員)

私の地域は一番南に位置するため、どちらの学校に統合されても最も遠い場所になります。子供たちが安全に学校へ行ける方法を確保していただくことをお願いします。

(委員)

資料を見ると、温知小学校は築18年、八幡小学校は築11年であり、他の学校は約50年経過しています。温知小と八幡小を2校として残すのは妥当かと思います。また地図を見ると、温知小は池田町のほぼ中央にあり、八幡小は南部にあります。北部の学校がなくなると寂しくなりますが、グーグルマップで見ると北部は畑や田んぼが多く、住宅は中央から南部に集中しているので、2校案は妥当かと思います。また、環境が大きく変わること子どもたちに影響が出ることもあります。小規模校から大きな学校への進学で不安を感じる子どももいるので、子どもの心のケアも検討していただきたいと思います。

(委員長)

今のご意見は参考にさせていただきますが、どの学校を残すかはここで決める話ではなく、基本方針として2校体制にすること、通学の負担を軽減することなどの大枠を議論するものです。

(委員)

保護者は皆、うちの子が幸せになれることを考えています。2クラスの必要性については教育的効果の根拠があるのか疑問です。宮地小学校などは長年1クラスで運営されてきました。しかし宮地小学校出身者がどうかというと全く問題はない。2クラスというのはあくまで一つの基準として捉え、将来的に変わる可能性もあると受け止めるべきだと思います。保育園についても、現在は国の基準から見ると小規模な園もあり、池田町の手厚い子育て支援として維持されていると言えます。これをどこまで維持するかは財政面も含めた意思決定が必要となります。公立と私立ではお金の出方も違います。運営としては40人がボーダーだと思いますが、それを下回っている保育園もあります。どこまで細分化できるかということが分かれば住民にとって大きな力になるしありがたいと思います。

(委員)

基本方針について概ね了解しました。令和13年度を過ぎて当分の間は2校体制、その後は1校体制でいくことが分かりました。保育園については、池田町は私立についてゆるくやっていることもあるので、今後議論していきたいと思います。

(委員)

方針も理由づけもしっかり分かって良かったと思います。2校体制も理解できました。学校間の壁をなくしていきたいですし、教育のレベルが上がっていくと良いと思います。



(委員長)

基本方針としては、令和 13 年度を目処に 2 校体制に整備すること、各学年で適正規模を確保すること、通学の負担軽減のための施策を検討することという内容で、概ね皆さんのご賛同をいただいたと思います。特に通学負担の軽減については多くの方からご意見がありました。次回は今日の意見を基に具体的な方策について議論したいと思います。

(事務局)

4 その他について何かあればお願いします。

5 閉会

(教育長)

皆様からご意見をいただき、基本的な方向性を確認できました。次回は最終回となりますが、それまでに地域の方にもこの基本方針について説明し、その反応も含めて報告したいと思います。池田町の教育をどうしていくかという前向きな議論になるよう進めていきたいと思います。次回は地域との連携を中心に議論いただきたいと思います。ありがとうございました。

(事務局)

それでは次回の検討委員会の開催は年が明けてからもう 1 回、第 4 回検討委員会を開催させていただきたいと思っています。委員の皆様の日程調整を行いながら開催日を決定してお知らせさせていただきますので、よろしくお願いいたします。それでは第 3 回の池田町学校あり方検討委員会を終了させていただきます。委員の皆さま、本日はありがとうございました。